

あいち・なごや強靱化共創センター設立記念 防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、11月11日(土)、豊田講堂を中心に、地域の防災活動の担い手を「つなぐ」ことをテーマにしたシンポジウム「つなぎ舎」を開催しました。

本学では、愛知県などが行っている防災にかかわる人材の育成を支援しており、また、そのような目的で実施された養成講座等を受講した方々を「つなぐ」場を持つことに



シンポジウムに登壇の方々

も注力しています。今回の防災人材交流シンポジウムでは、若者をターゲットに据え、世代を超えた交流を目指した企画を実施しました。

まず、午前中は、減災館を会場に、小中高校生や大学生、20代の社会人による分科会を開催し、地域の防災・減災の取り組みとして「自分たちにできること」はどのようなことかをグループで話し合いました。そして、午後は会場を豊田講堂へと移し、ディスカッションの成果を披露するとともに、阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災、そして、昨年の熊本地震で被災し、その後の復旧・復興に被災地で取り組んでいる若者4名の体験談を聞く時間をもちました。被災経験のない愛知の若者が、被災地での実体験を直接聞くことは、災害への備えや地域での活動の重要性に気づくよい機会となったようです。

なお、このシンポジウムは、愛知県、名古屋市と本学が今年6月に設立した「あいち・なごや強靱化共創センター」の設立記念行事を兼ねたもので、この新しいセンターは、産業界と協力して、この地域を災害に強くするためのシンクタンクとして活動していくことを目指しています。

カンボジア王立8大学長との懇談を実施

●アジア共創教育研究機構

アジア共創教育研究機構は、11月7日(火)、カンボジア王立プノンペン大学のチェット・チャーリー学長、王立法経大学のルイ・チャンナ学長、王立農業大学ゴー・ブントアン学長をはじめとするカンボジア王立8大学長との懇談を行いました。本学はカンボジアにおいて、カンボジア事務所、日本法教育研究センター及びアジアサテライトキャンパス



進行を行う渡辺理事

学院サテライトキャンパスを設置し、法学、国際開発、農学分野を中心に教育・研究を行っています。昨年、本学と王立プノンペン大学の共同主催により「第1回日本・カンボジア学長会議」がプノンペンにて開催されました。今回の王立8大学学長の日本訪問は、昨年に続き、今後の両国における連携に係る意見交換を行うことが目的のひとつです。懇談では、渡辺理事の進行により、磯田アジアサテライトキャンパス学院長による学院紹介の後、藤川アジア共創教育研究機構副機構長から、人文社会科学研究者を中心に集結し、世界規模の課題解決に向けた共同研究を行うプラットフォームとして同機構が設立され、未来社会創造機構、高等研究院とともに、異分野融合による教育研究力強化の柱として位置づけられていることを説明しました。続いて、同機構に参画している大学院教育発達科学研究科、大学院生命農学研究科及び大学院国際開発研究科から特色ある教育・研究の紹介を行いました。カンボジア側は、研究課題「授業研究」に高い関心を示され、活発な意見交換を行いました。アジア共創教育研究機構とカンボジアの新たな連携が期待されます。